



平成27年度 当初予算案発表

子どもの 未来のために、**今**。 新たなステージへ

平成27年1月30日(金) 午後2時00分～
足立区役所 南館8階 特別応接室

《 次 第 》

- 1 平成27年度 予算編成方針
- 2 貧困の連鎖を断つために
切れ目のない支援で子どもの貧困対策を強化します …… 1
- 3 ～エコで連携 まちとまち～
環境でつながる自治体連携プロジェクト…………… 18
- 4 下り急行線高架橋完成
竹ノ塚駅付近鉄道高架化…………… 19
- 5 平成五色桜オーナー募集 最終年度
みなさんとともに桜の名所をよみがえらせます…………… 21
- 6 そ の 他
- 7 質 疑

[担当] 広報室 報道広報課 03(3880)5816

貧困の連鎖を断つために

切れ目のない支援で子どもの貧困対策を強化します

足立区では平成26年9月に「子どもの貧困対策本部」を立ち上げ、全庁的体制によって施策の検討を進めてきました。

区では平成27年度を「子どもの貧困対策元年」と位置付け、6つの新規事業と3つの拡充事業を27年度予算に組み込みました。「貧困を予防する・貧困から救う・貧困の連鎖を断つ」という観点で、出産前から就労までのライフステージごとにきめ細かな対策をうち、「子どもの貧困対策関連事業」を実施・強化していきます。

対策元年

【子どもの貧困対策】

— ライフステージごとの 早期 できめ細かな 対策 —

親・子ども

- 産まれる前から支援する
- 各種健診を強化する
- 元気なところとからだをつくる

～ 小学生

- 就学に備える
- 学習環境を整える
- 学びを支援する

予防

中学生

- つまずきの克服を支援する
- 学習環境を整える
- 学ぶ意欲・生活を支援する

高校生～

- 高校中退を予防する
- 大学進学を応援する
- 就労訓練・準備を支援する

救う

全ての
子どもたち
若者たちの
将来に「夢」
と「希望」を

連鎖を 断つ

「6つの新規事業」と「3つの拡充事業」
を27年度予算に組み込みスタートする

1 足立区の現状

人口減少・高齢化・年少人口の減

今後の人口推計(高齢化・年齢別人口の推計)

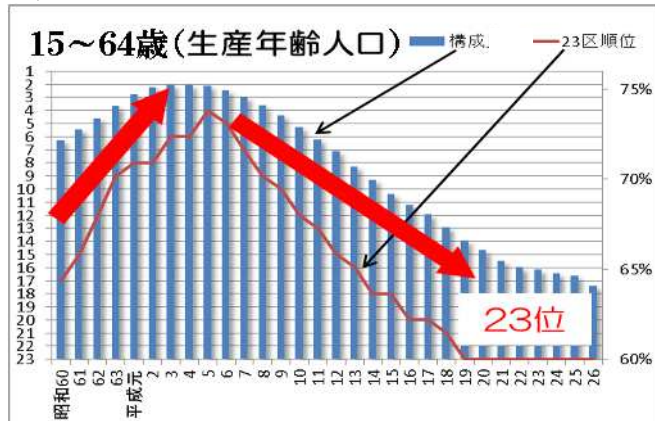
<グラフ1>



各年1月1日推計



<グラフ2>



<グラフ3>



今後、足立区では老年人口の比率が高まり、年少人口及び生産年齢人口の比率は減少する！

18歳未満の生活保護受給者数と18歳未満人口

<グラフ4>

平成12年を100%とした場合の
足立区の18歳未満の人口及び生活保護受給者数の推移

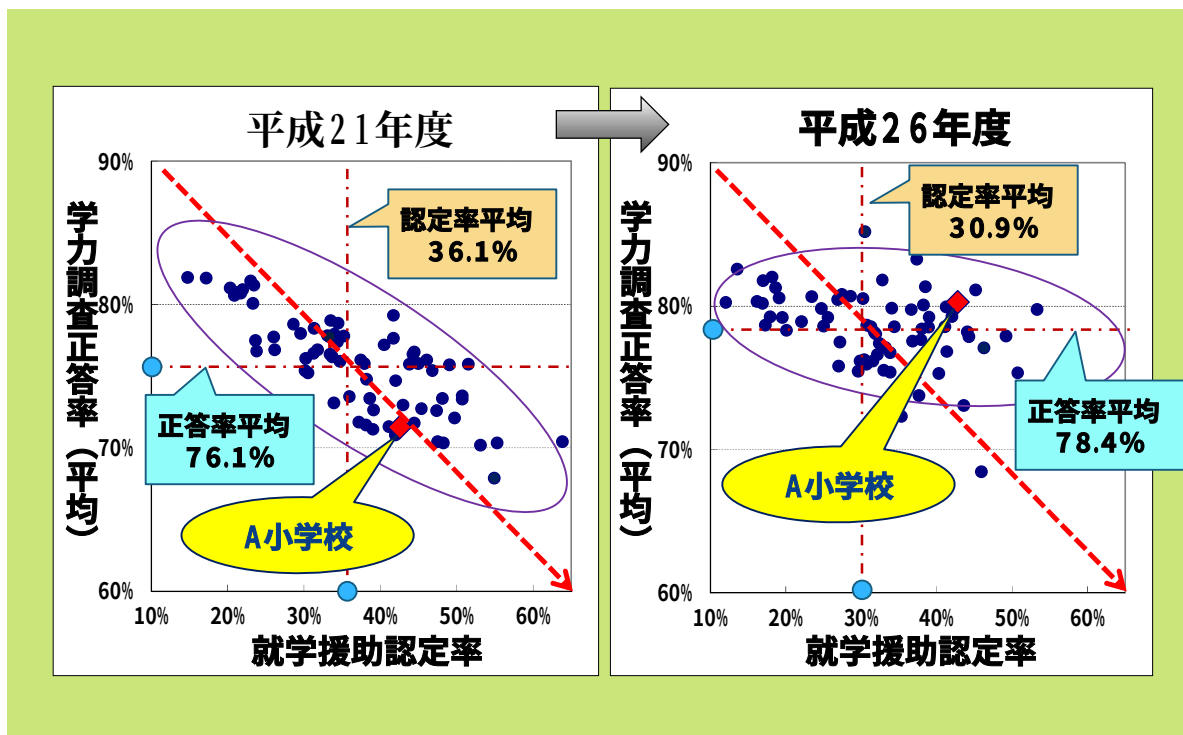


足立区の18歳未満の人口がほぼ横ばいで推移する中、生活保護受給者数は増加している。

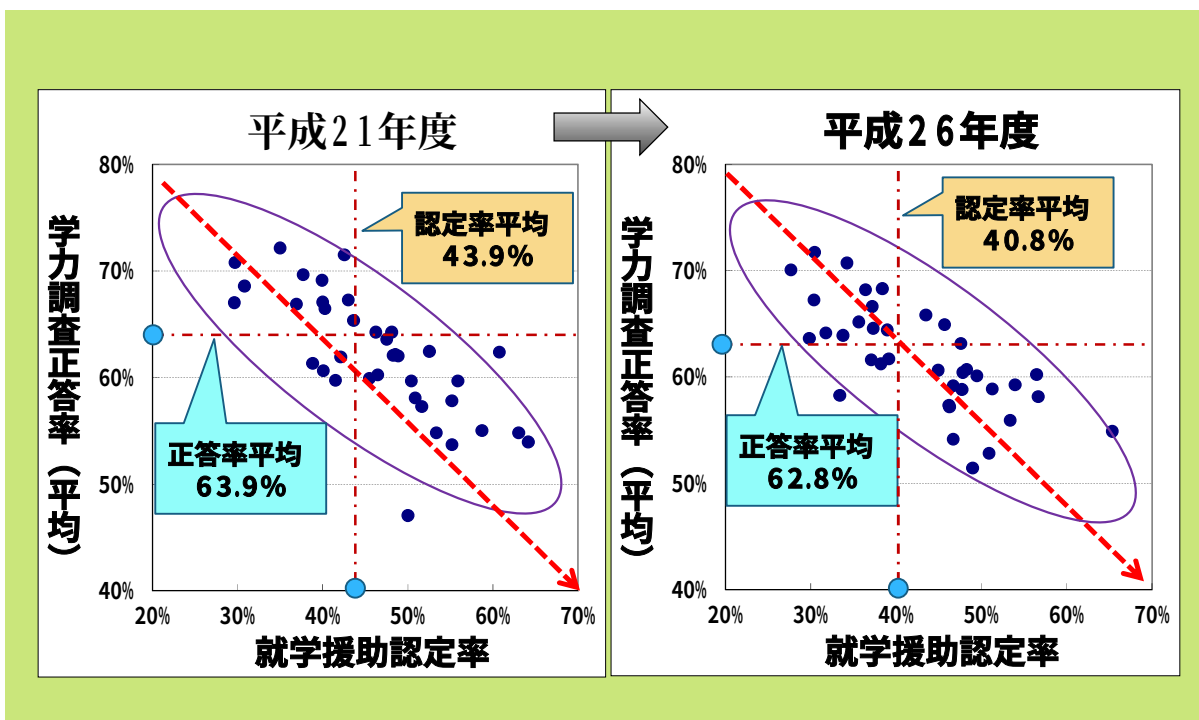
就学援助認定率と学力

平成21年度と26年度の就学援助認定率と学力調査結果の比較

<グラフ5> 就学援助認定率と学力調査結果<小学校>



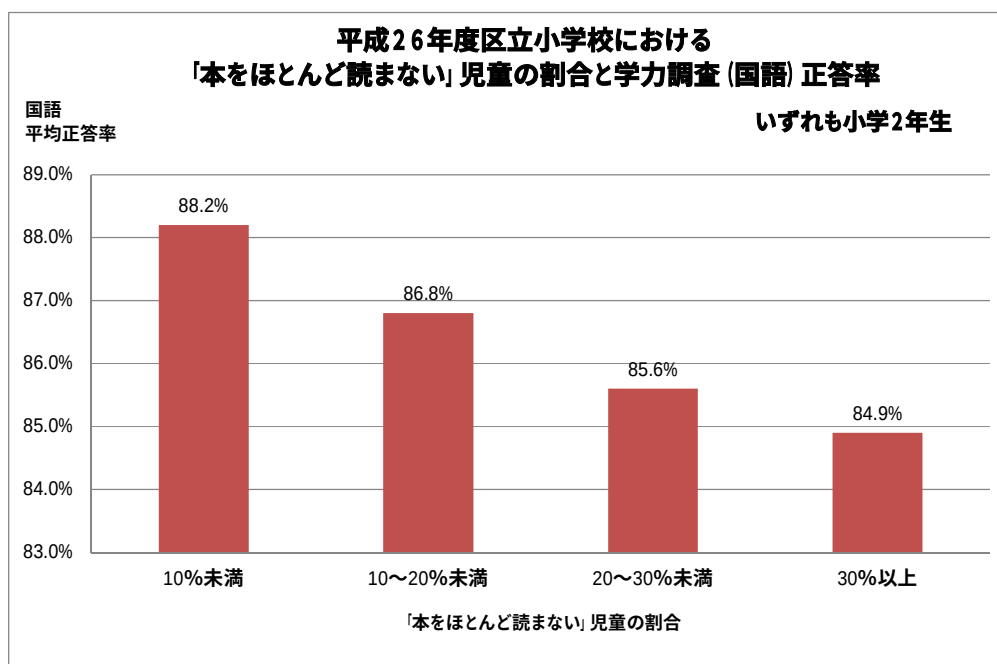
<グラフ6> 就学援助認定率と学力調査結果<中学校>



小学校では就学援助認定率と学力の関係に変化が出始めているが、中学校では依然として就学援助認定率と学力との相関関係が続いている

読書習慣と学力

<グラフ7>



「本をほとんど読まない」と答えた児童が多い学校ほど、国語の正答率が低い傾向にある

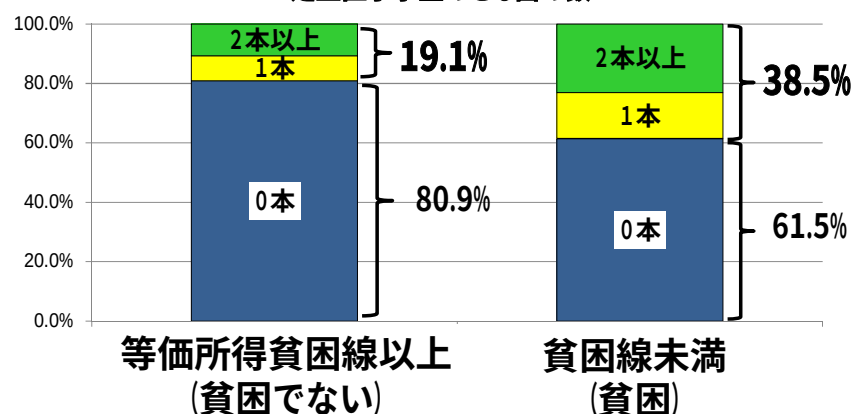
「貧困」と「子どものむし歯」

<グラフ8>

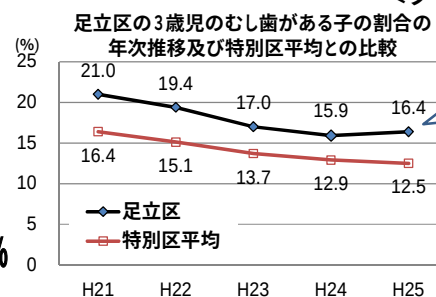
【貧困世帯の子どものむし歯の数】

平成24年「まちと家族の健康調査(東京大学)」より

足立区小学生のむし歯の数



<グラフ9>



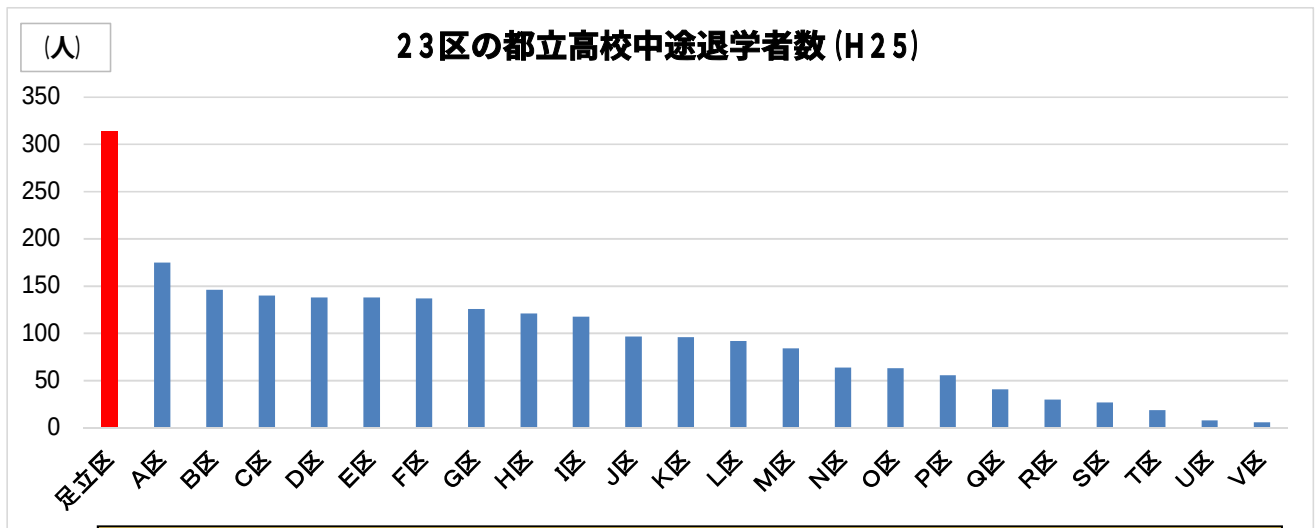
23区で
最も多い!

貧困とむし歯の本数、
歯みがき習慣は関連
している

足立区の子どもはむし歯が多く、調査では貧困とむし歯の関連が指摘されている

都立高校の中途退学者数

<グラフ 10>



平成25年度の足立区内都立高校中途退学者数は314名で23区ワースト

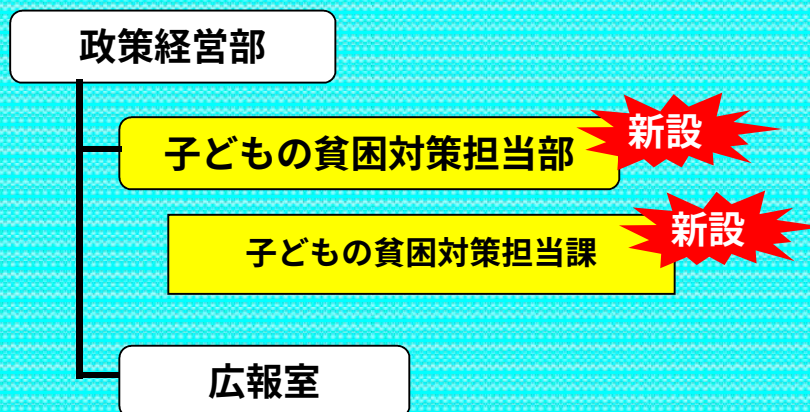
平成25年度の都立高校中途退学者は23区全体で2,236名

※「児童・生徒の問題行動等の実態について (H17～H24)」(東京都教育委員会) より
平成17年度の足立区内都立高校中退者は502名

2 組織改編

「子どもの貧困対策」への各担当部署の意識を高め、各施策を体系化して全庁的体制で取り組んでいくため、政策経営部内に子どもの貧困対策担当部を設置します。また、有識者を加えた検討会議を設置し、8月頃までには、今後の子どもの貧困対策関連事業の実施計画を定め、対策の充実を図ります。

【改編後】



3 子どもの貧困対策関連事業

子どもの未来のために、ライフステージごとに早めにかつ、きめ細かな対策を実施します。

産まれる前から支援

**母子健康手帳交付時の妊娠届出書・アンケート調査項目の充実
10,767千円（P20）**

妊娠届出時に、誕生する子どもの家庭環境をいち早く把握するため、妊娠届出書・アンケートを実施し、結果にもとづき、妊婦をとりまく状況に応じた支援を行っています。

27年度からは、子どもの貧困に繋がる恐れのあるハイリスク群（要支援者）をさらに的確に発見するため、経済的な不安の有無や健康保険の加入状況などの項目を追加し、経済状況等が把握できる内容に充実します。



【問合せ先】 衛生部保健予防課長 増田 和貴 電話03（3880）5350

貧困の実態把握

子どもの健康・生活実態調査の実施 【新規】 395千円（P20）

足立区の子どもたちの貧困はどこまで深刻か、その原因は何か。課題への効果的な処方を行うには現在の子どもたちの実態把握が欠かせません。区は独立行政法人国立成育医療研究センターと共同して「子どもの健康・生活実態調査」を行います。経年的に追跡を行い、この調査で明らかになる課題への施策を構築し、貧困の連鎖を断絶していきます。

【調査対象】

小学1年生(予定)

【調査内容】

子どもや保護者の生活
実態・健康、貧困を測る指
標などを質問

【貧困指標項目】

食費、就学前の養育費、所得など

【生活実態・健康の項目】

むし歯の有無、就寝・起床時間、
朝食摂取習慣など

【地域力など環境の項目】

近所との交流方法、頼れる人の数 など

【分析】

国立成育医療研究センターが回答を分析し、結果を区へフィードバック

**課題の明確化と、
優先して取り組む施策の構築！**

【問合せ先】 衛生部 こころとからだの健康づくり課長 馬場 優子
電話03（3880）5433

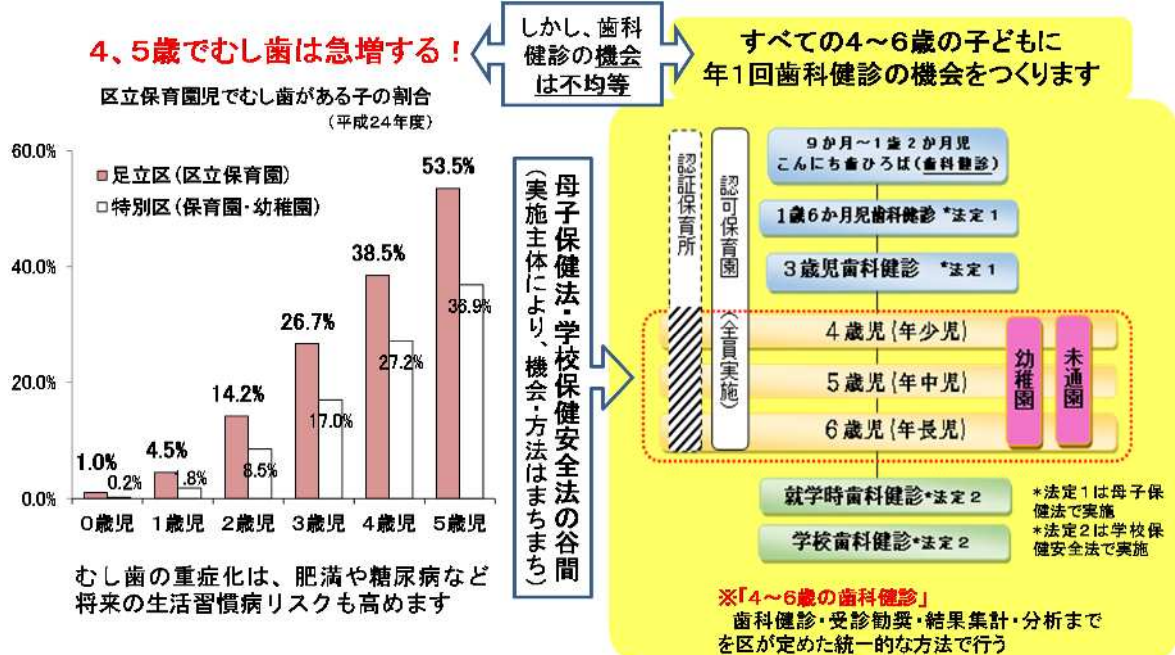
各種健診を強化

全4～6歳児歯科健診の実施【拡充】15,080千円(P20)

歯の健康は歯みがき習慣やむし歯予防など、子どもの頃から継続した取り組みが欠かせません。むし歯は「子どもの貧困」との関連も指摘され、対策は急務です。区は子どもの歯科健診を強化し、早期の予防・治療を推進していきます。

■あだちっ子歯科健診の拡充

歯科健診機会の平等でむし歯を減らす！



規則正しい食生活や歯みがき習慣づくりをすすめます

あだちっ子歯科健診(4～6歳児 子ども家庭部) 15,080千円

- 4歳から6歳になる子ども全員に、区の統一的な歯科健診を実施
- 健診結果に基づいた受診勧奨・受診確認などフォローの徹底

強化

【問合せ先】衛生部 こころとからだの健康づくり課長 馬場 優子
電話03(3880)5433

就学準備

そだちチューターの配置 【新規】 8, 114千円 (P22)

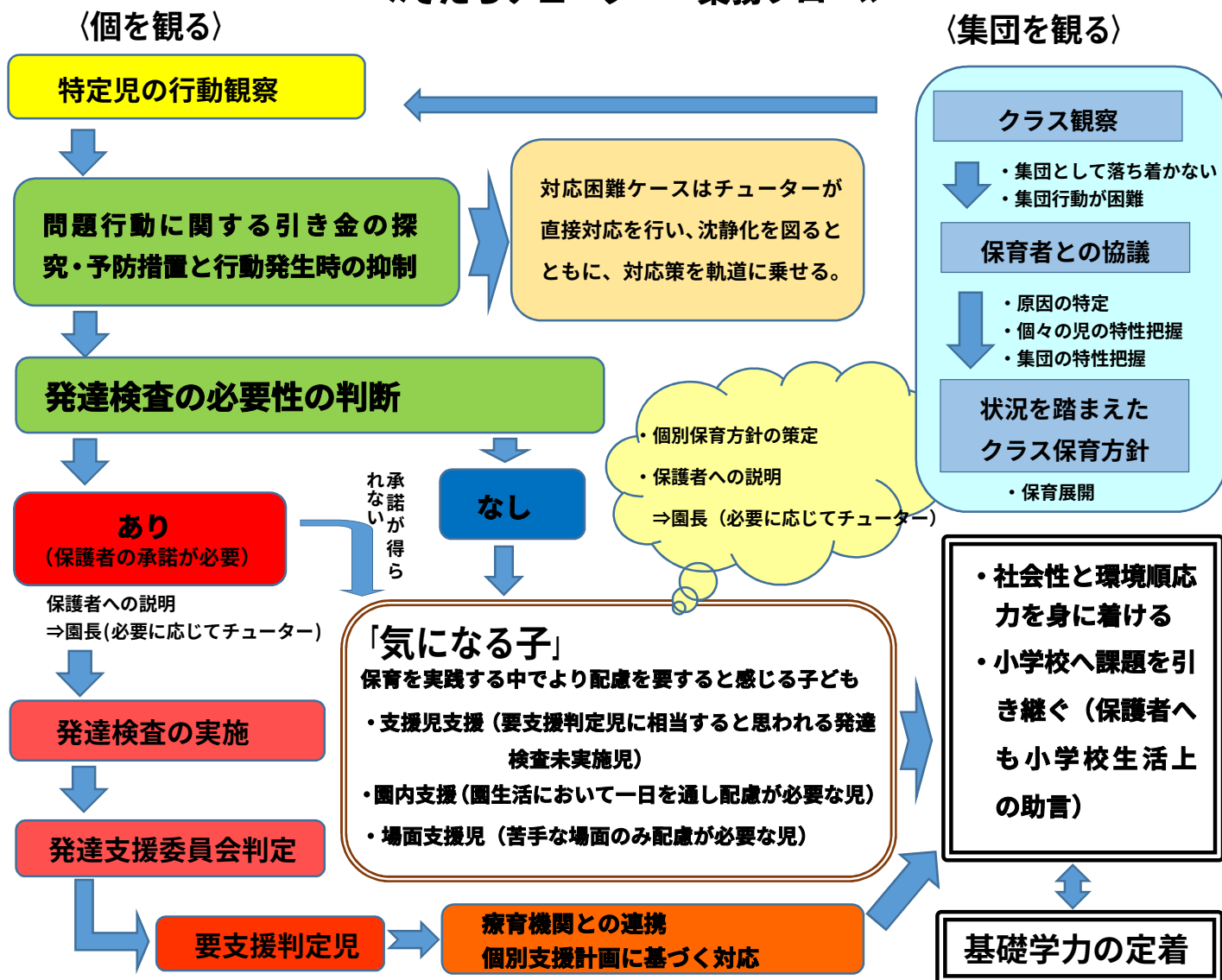
就学前教育・保育の質的向上と子どもたちの健やかな成長を目指して、臨床心理士等の資格を持つそだちチューター2名を新たに配置します。将来、貧困に陥りかねない学力の低下を防ぐために、より早期に対応します。

【対 象】 公立保育園6園にモデル導入

【内 容】 そだちチューター（非常勤職員）の配置

【事業概要】 発達課題の早期発見や個々の子どもに応じた支援計画に基づく丁寧な対応とともに、小学校への円滑な就学につなげることで、基礎学力定着のための安定した学習環境づくりを支援します。

《そだちチューター 業務フロー》



- ① 担当園（3園）を設けて定期訪問（週1回程度）します。
- ② 担当園以外の園からは、その要請に応じて速やかに訪問し対応を図ります。

【問合せ先】 教育次長幼児プロジェクト推進担当課長 市川 保夫 電話（3880）5446

あだちはじめてえほん事業 【新規】8,226千円 (P33)

健診時に良質な絵本と読み語りを提供することで、親子がふれあうことの大切さと絵本を読む楽しさを伝え、読書習慣の定着を図るとともに、将来的な社会性や学力の向上につなげていきます。

■3～4か月児健診時の絵本の配布・読み語りの実演(3,910千円)

3～4か月児健診を受診する親子を対象に、絵本の読み語りを通して親子の絆を深める手助けをするとともに、乳幼児期より親子での読書習慣の定着を図ります。あわせて、ご家庭で読み語りを行うときに活用できるおすすめの絵本を一冊プレゼントします。

■1歳6か月児健診の健診案内に絵本引換券封入(4,316千円)

1歳6か月児健診の通知に、ご家庭で読み語りを行うときにおすすめの絵本の引換券を同封し、区内図書館や子育てサロンで絵本を一冊、引換えにお渡しします。

■効果検証

3～4か月児健診、1歳6か月児健診、3歳、就学前にアンケートを実施し、読み語りの重要性の認識や読書習慣の定着などに貢献しているかの検証を進めます。

【問合せ先】地域のちから推進部 中央図書館長 飯塚 諭 電話(5813)3750

学びを支援

学力向上講師制度の再構築 【新規・拡充】 491,759千円 (P34)

子どもたちの未来に大きな力を与え、自らの人生を自ら切り拓くための財産となる基礎学力のさらなる定着を目指して、これまで一定の成果を上げている「副担任講師制度」による人的支援を、児童・生徒一人ひとりのために、より具体的な課題解決に特化して活用できるように再構築し、将来の貧困の連鎖を断ち切る支援をします。

予算 12,023千円増 人員 19名増	平成26年度 479,736千円(137名)	平成27年度 491,759千円(156名)
副担任講師	小・中115名	【終了】
そだち指導員	小7名	【拡充】小69名
教科指導専門員	中15名	【拡充】中30名
	【小学校未実施】	【拡充】小20名
生活指導員		【新規】中37名

■そだち指導員 【拡充】 247,950千円

【対 象】 全小学校69校

【内 容】 そだち指導員（非常勤職員）の配置

【拡充内容】 モデル校（7校）への配置から全小学校69校を対象に配置

【事業概要】 国語・算数の授業において、つまずきや定着度に不十分さが見られる児童に対し、別教室等において、個別学習指導を行い、つまずきの早期解消を図ります。

■教科指導専門員 【拡充】 193,748千円

【対 象】 小学校（全科）・中学校（国語・数学・英語）

【内 容】 教科指導専門員（非常勤職員）による教員への指導・助言

【拡充内容】 中学校の専門員を15名から30名に拡充。新たに小学校にも巡回（20名）

【事業概要】 教科指導に優れた専門員が各学校を巡回し、教員の授業内容の改善・充実への指導・助言を行います。

■生活指導員 【新規】 50,061千円

【対 象】 全中学校37校

【内 容】 生活指導員（非常勤職員）の配置

【事業概要】 学校生活の中で、生活面から生徒を支援し、学校での適切な学習環境の維持と向上を図ります。

【問合せ先】 教育次長 学力定着推進担当課長 浅見 信昭 電話（3880）6649

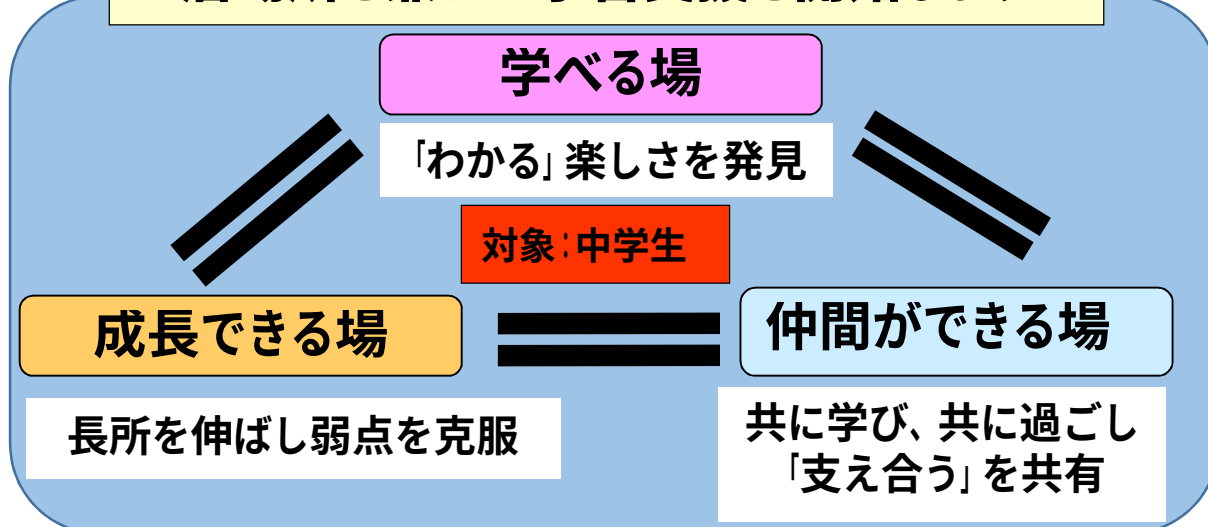
学ぶ意欲・生活を支援

放課後の居場所を支援

【新規】18,100千円 (P52)

中学生を対象に家庭に代わる学習場所を提供することで、子どもたちの学習習慣と意欲を醸成し、高校進学につなげます。また、居場所の提供により、大人や子どもたちとの交流を通じて、子どもの生活を安定させ、自尊感情、自己肯定感を持てるよう支援します。

居場所を兼ねた学習支援を開始します



■事業の対象者

原則、以下の状況にある中学生が対象

- ・家庭における学習環境が不足し、学習習慣が身についていない者
- ・長時間の学習が苦手な者
- ・学習をはじめ生活習慣を身につける必要がある者
- ・何らかの事情により常時放課後・夜間を子どもだけで過ごす状況にある者

■事業概要

- ・学習支援はボランティアによりマンツーマン
 - ・27年度は1個所からスタート（設置場所は教育委員会と連携し定めます。）
 - ・定員は50～60名程度
 - ・状況に応じて学習支援を必要とする家庭への訪問を実施
- ※簡単な食事（おやつ程度も含む）の提供も検討

【問合せ先】福祉部 生活困窮者支援担当課長 高橋 秀幸 電話（3880）6219

困難ケースに専門家のサポート

スクールソーシャルワーカーの配置

【新規】

14,652千円 (P41)

児童・生徒の抱える困難な課題に対応する社会福祉等の専門的知識と技術を持つスクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）を３名配置し、複雑化する家庭環境などにより十分に学習できない子どもたちに対する支援を強化します。

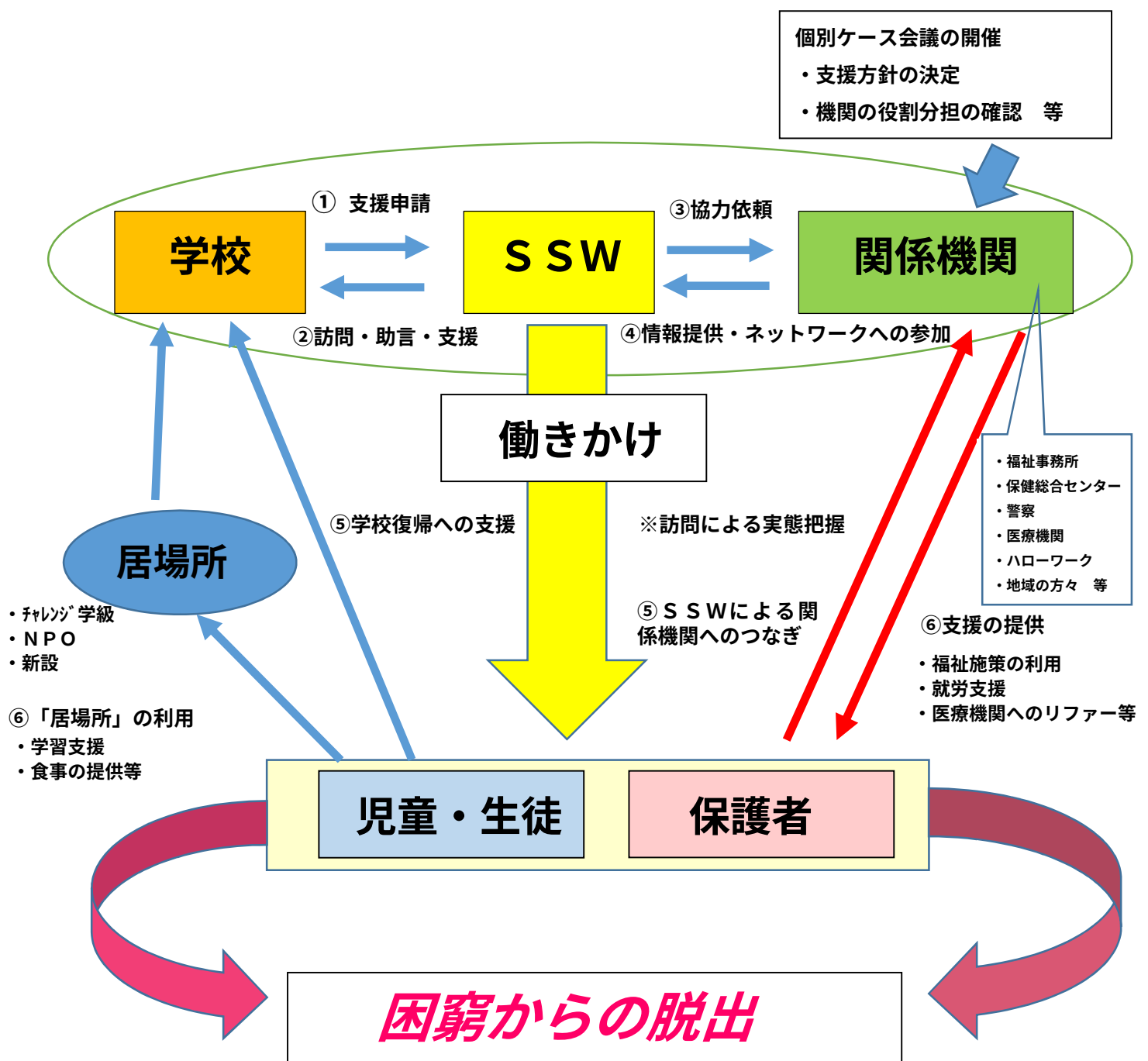
【対 象】 モデル地区を重点に小・中学校

【内 容】 スクールソーシャルワーカー（非常勤職員）の配置

【事業概要】 小・中学校を拠点に関係機関とネットワークを構築しながら、家庭や地域など児童・生徒を取り巻く環境に働きかけ、子どもを取り巻く困難な課題に対応していきます。

- ・ＳＳＷは学校からの依頼を受けて、学校と関係機関のネットワークを構築することにより、当該家庭に必要な支援を行うことで課題解決をはかる。また、「個票」等の情報から、必要と判断される場合はＳＳＷから学校に働きかける。
- ・モデル地区には２名のＳＳＷを配置。それ以外の学校については１名を派遣する。

< S S Wによる支援のながれ >



【問合せ先】 子ども家庭部 こども支援センターげんき所長 西野 知之

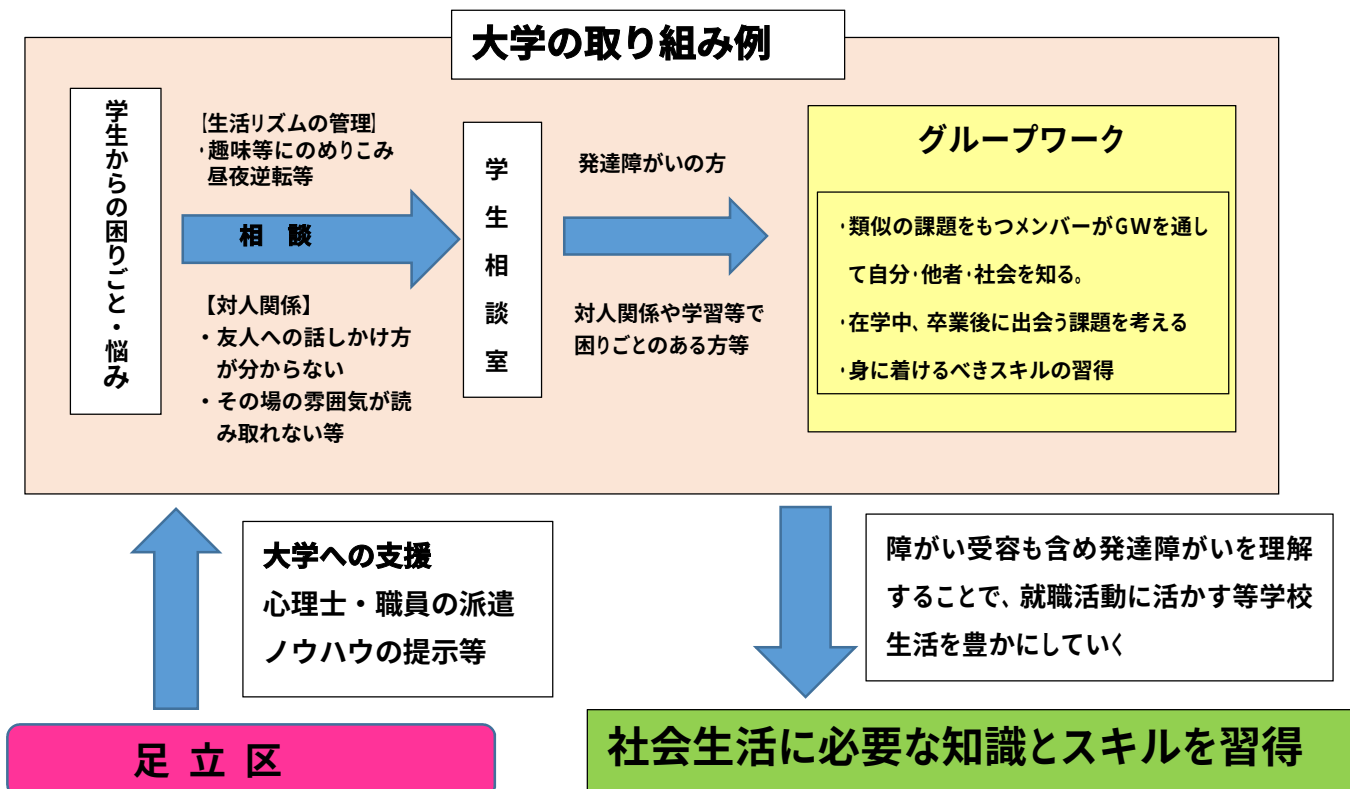
電話 (3 8 5 2) 2 8 6 1

就労支援

発達障がい青年期・成人期支援

【新規】168千円（P21）

青年期・成人期の発達障がい者支援の一環として、区内の大学へ通学中の発達障がいの方、または対人関係やコミュニケーション、学習等に関して困難を抱えている方に対し、グループワーク等を通じて学校生活を送りやすくするための支援を行います。



【問合せ先】福祉部 障がい福祉センター所長 五十嵐 隆 電話03（5681）0131

ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金の支給期間を延長【拡充】

40,602千円（P21）

ひとり親家庭のお父さん又はお母さんが、国家資格取得のために2年以上専門学校等で修業する際に、生活を支援するための費用として高等職業訓練促進給付金を支給しています。

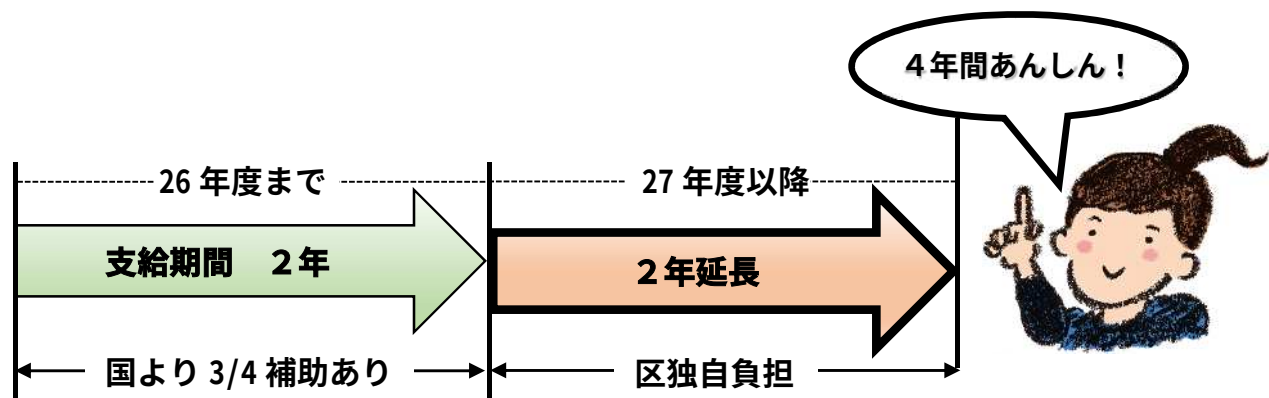
これまで支給期間は2年を上限としていましたが、看護師など3年以上の修業を必要とする資格があることから、区の独自負担により上限を4年まで拡充し、ひとり親家庭の親のさらなる負担軽減を図っていきます。

【対象】20歳未満の子どもを扶養しているひとり親家庭のお父さんまたはお母さん

【支給額】非課税世帯 月額100,000円

課税世帯 月額 70,500円

【支給期間】最大4年



【対象資格】看護師・准看護師・保育士・保健師・助産師・理容師・美容師・理学療法士・作業療法士・介護福祉士等

※今後は、区独自に栄養士や税理士などの国家資格にも対象を拡大していく予定です。

【問合せ先】福祉部親子支援課長 初鹿野 学

電話03（3880）5932

4 子どもの貧困対策キックオフ

シンポジウム「子どもの貧困にどう向き合うか」

子どもの貧困対策法（子どもの貧困対策の推進に関する法律）の施行を受け、足立区では貧困の連鎖を断ち切るため、本格的な検討に入っています。区は平成27年度を「子どもの貧困対策元年」と位置づけ、そのスタートとして区民や関係機関、職員が子どもの貧困に関する認識を深めるためのシンポジウムを開催します。

■開催日時

平成27年2月2日（月曜日） 午後2時～午後4時30分
（午後1時30分開場 ※午後1時15分から受付開始）

■開催場所

天空劇場（東京芸術センター21階） 足立区千住1-4-1

■出演者

放送大学副学長
子どもの貧困対策大綱の策定に関わる事前検討会座長

宮本 みち子氏

NPO法人キッズドア理事長

渡辺 由美子氏

内閣府政策統括官（共生社会政策担当）
付参事官（子どもの貧困対策担当）

加藤 弘樹氏

足立区長

近藤 やよい

■その他

対象：区民の方 定員：50人 費用：無料

※当日は、区職員及び関係機関の方も参加します。

【問合せ先】福祉部 生活困窮者支援担当課長 高橋 秀幸 電話（3880）6219

～エコで連携 まちとまち～

環境でつながる自治体連携プロジェクト

自治体連携環境事業

5,305千円 (P59)

大都市では難しい地球環境保全に貢献する活動を各地の自治体と連携して進めるとともに、連携自治体の活性化にもつながる取組みを目指します。

■森林の保全や整備を支援します

区の環境イベント「地球環境フェア」の開催に加え、清掃車約 120 台の走行に伴い排出されるCO₂740t（想定）を、森林整備を支援するカーボン・オフセット（※）によりゼロにします。

また、植林活動や間伐材の有効活用を進めていきます。

※カーボン・オフセット…自らの活動により排出してしまうCO₂を他の削減や吸収活動で埋め合わせること。

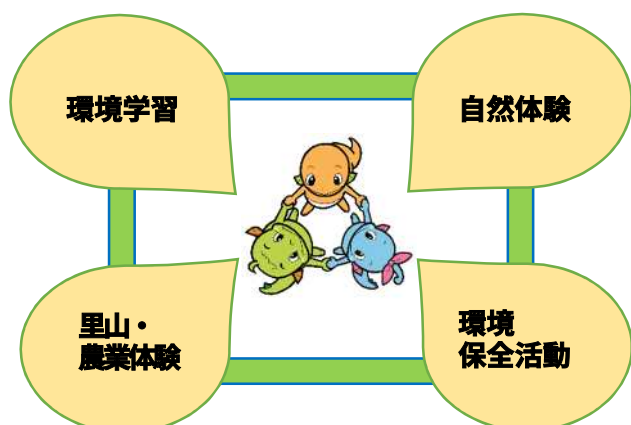


■体験や学習で環境への意識を高めていきます

農業体験や自然と調和した田舎暮らし体験などを通じて、里山や森林に対する理解を深めるとともに、生物多様性や自然環境保全の大切さを学びます。

■『友好自治体への環境ツアー』を実施します 【新規】

友好自治体（新潟県魚沼市、長野県山ノ内町、栃木県鹿沼市）と連携して、観光だけでなく、各地域の環境資源を活用した環境ツアーを実施し、様々な体験や学習を通じて環境意識の向上や地球環境の保全を図るとともに、友好自治体の地域活性化とより一層の交流促進につなげます。



新潟県魚沼市
昭和 57 年 10 月提携

米どころ、酒どころとして豊かな農村文化を守っている。尾瀬国立公園の新潟県側からの玄関口。雪を活用した低温倉庫で米や野菜を保存している。

長野県山ノ内町
昭和 57 年 10 月提携

長野県北部に位置し、自然豊かな志賀高原がユネスコエコパークに指定されている。再生可能エネルギーとして温泉熱の活用を進めている。

栃木県鹿沼市
平成 4 年 11 月提携

長い日照時間を生かした太陽光発電など、再生可能エネルギーに力を入れている。また、森林資源を活用した施設づくりに力を入れている。

【問合せ先】環境部 環境政策課長 伊藤 良久

電話（3880）5935

下り急行線高架橋完成

竹ノ塚駅付近鉄道高架化

鉄道立体化の促進事業

4,101,100千円 (P62)

都内初の区施行 による連続立体交差事業である東武伊勢崎線竹ノ塚駅付近の鉄道高架化工事を推進します。本事業により交通の安全性、利便性を向上させ、駅東西の一体的なまちづくりを推進します。平成27年度は、仮設地下通路設置工事を進めるとともに、下り急行線高架橋（全77基）が完成する予定です。また、区画街路第14号線の用地の早期取得を目指します。

平成27年度主な事業内容

【鉄道関連事業】

3,520,000千円

- ・下り急行線高架橋工事
- ・仮設地下通路設置工事 など

【まちづくり関連事業】

31,100千円

- ・地区計画の作成委託 など

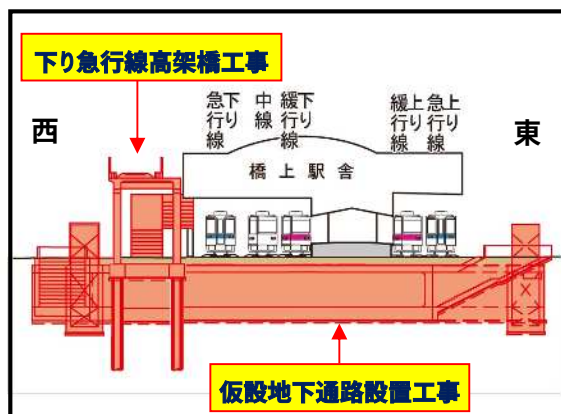
【用地購入・補償】

550,000千円

- ・区画街路第14号線
(竹ノ塚駅西口周辺)



平成27年度主な工事



現在の状況



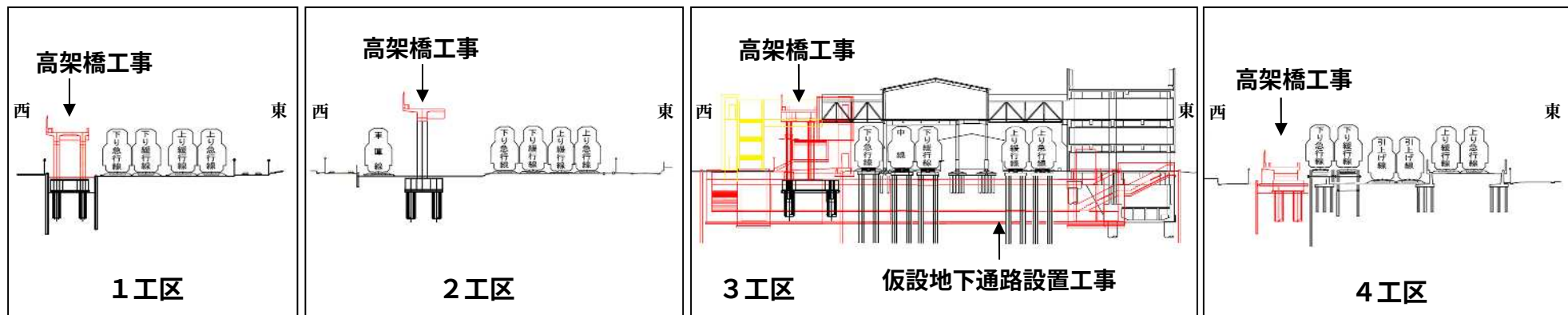
【問合せ先】 鉄道高架化に関すること
 鉄道立体推進室 鉄道立体化担当課長 会田 康之
 電話 (3880) 5484
 まちづくりに関すること
 鉄道立体推進室 竹ノ塚整備推進課長 高橋 茂
 電話 (3880) 5250

平成27年度の主な事業内容

平面図



各工区の施工断面図



赤：新設または移設構造物 黄：撤去前または移設前構造物

平成五色桜オーナー募集 最終年度

みなさんとともに桜の名所をよみがえらせます

荒川桜づつみ整備事業

71,490千円(P68)

明治期から大正時代に桜の名所であった荒川の五色桜を復活させるため、平成22年度から計画的に整備を進めてきました。

総事業費およそ2億7,800万円（うち国庫補助6,600万円）をかけて、都市農業公園～西新井橋付近の荒川河川敷左岸堤防に既存の205本を含め計663本、総延長約4.4kmの桜並木が27年度末に完成します。

最終年度にあたる27年度は、西新井橋上流約480mの区域に桜80本を植栽します。



明治時代の様子が描かれた絵はがき
(郷土博物館所蔵)

平成五色桜（ふるさと桜）オーナー制度

桜1本につき3万円の寄付を募ります

苗木にはオーナー名やメッセージを入れた「桜のオーナー銘板」が取り付けられます

応募はひとり1本まで（既オーナーは応募できません）応募多数の場合は抽選

募集はあだち広報及び区ホームページにてお知らせします 平成27年6月下旬予定

26年度までのオーナー桜 378本

27年度募集予定本数 80本



桜の苗木が
大きく成長するまで
およそ20年



よみがえる桜の名所

【問合せ先】 みどりと公園推進室 みどり推進課長 長島 章 電話（3880）5422

平成 22 年度～27 年度 桜づつみ整備計画区域図



都市農業公園
既設 73 本

H25 年度施工 95 本

H24 年度施工 91 本

既設 118 本

既設 14 本

H23 年度施工 14 本

H22 年度施工 178 本



年度	21 以前※	22	23	24	25	26	27	計
植栽本数	205	178	14	91	95	0	80	663

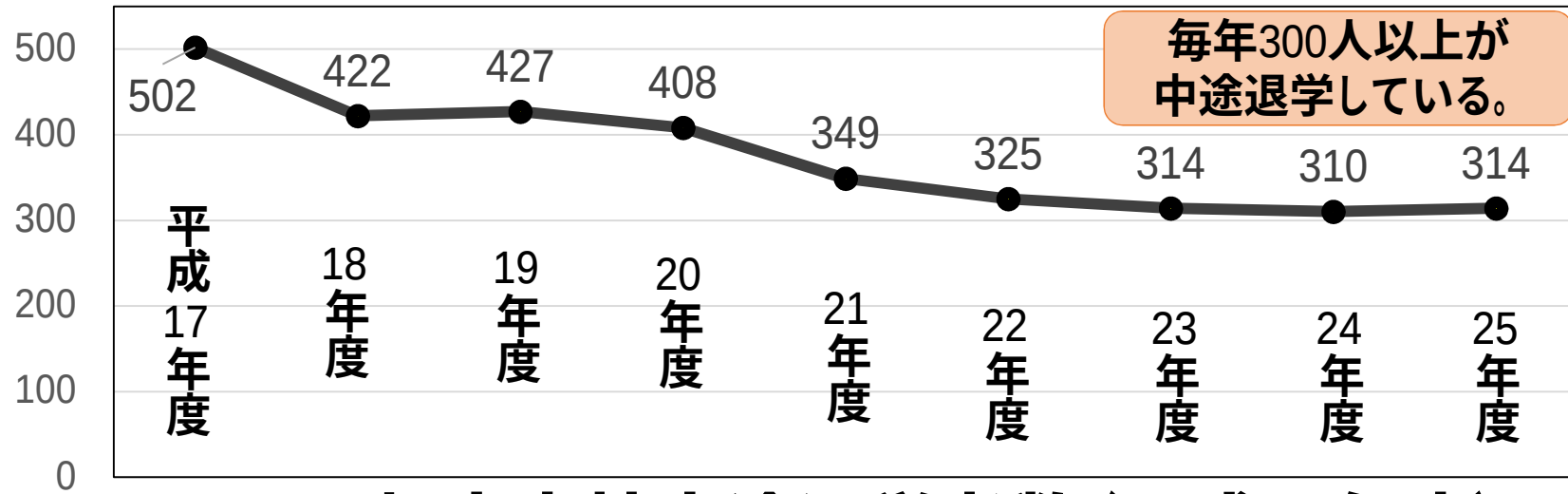
※都市農業公園 73 本、堀之内 1 丁目地先 118 本、桜守 14 本



H27 年度整備区域
80 本



区内の都立高校中途退学者数の推移



23区の都立高校中途退学者数 (平成25年度)

